125 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2022年9月25日号　　編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

迫る　シェークスピアよ、あなたは誰？

25日（日）＝1、3面

ウィリアム・シェークスピア＝**写真は胸像**＝は「ロミオとジュリエット」や「ベニスの商人」などの数多くの名作を残した劇作家として有名です。英国の生家は、彼が生きた16世紀当時のままに残り、観光スポットになっています。

シェークスピアは約40作を残しましたが、欧米では「本当の作者は彼ではない」といった「別人説」が根強くあります。さらには「真の作者」として数人の名前が挙がっています。もちろん、シェークスピア本人が作品を書いたという「本人説」を主張する声が揺らいでいるわけではありません。それでも、英国を中心に彼を巡る論争はやみません。

シェークスピアは一体誰なのか？　ロンドン支局長がこの謎を解こうと、関係者に迫りました。

論点　男性育児を阻むもの

28日（水）＝オピニオン面

日本の育児休業制度は、有給の休業期間が長いことなどから「世界一」と評価される一方で、男性の育休取得率は伸び悩んでいます。女性の社会進出も進んでおらず、20年までに指導的地位に占める女性の割合を30％程度に増やすとする政府の目標は達成されませんでした。何が「男性の育児参加」や「女性の社会進出」を阻んでいるのでしょうか？

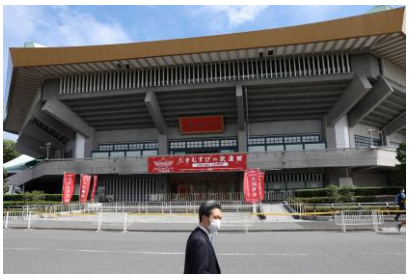
育休中の男性＝神奈川県川崎市で

特集ワイド　漂流する安倍派

26日（月）＝夕刊特集ワイド面

安倍晋三元首相の国葬が27日に執り行われた後、自民党には政局が動く気配が漂いそうです。あるじなき最大派閥の安倍派（清和政策研究会）は、分裂への序章に進むのでしょうか。

そこには岸田文雄内閣の支持率急落や、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）問題、安倍派の後見人、森喜朗元首相の五輪汚職捜査など複雑な要素が絡み合うようです。永田町を取材し、政治アナリストの伊藤惇夫さん＝**写真**＝らに聞きました。



安倍元首相国葬

28日（水）＝1、3面

参院選中の7月8日に銃撃され、死去した安倍晋三元首相の「国葬」が27日、東京都千代田区の日本武道館＝**写真**＝で行われます。戦後、首相経験者の国葬は1967年の吉田茂氏以来2例目で、岸田文雄首相や秋篠宮ご夫妻ら皇族方のほか、海外の要人も参列の予定です。安倍氏は憲政史上最長の8年8カ月間、首相を務めましたが、国葬実施を巡っては法的根拠や費用などが議論になり、世論の賛否が割れるなかで当日を迎えることになりそうです。

竹橋の窓辺から　編集後記

新聞社が誤りのない商品をお客さまに届けるうえで、「最後のとりで」ともいうべき存在が校閲記者です。彼らが日々、何を考え、どのように仕事に取り組んでいるのか。普段はうかがい知れないその現場について、腕利きの3人が語るオンラインイベント「あなたの知らない校閲の世界」が30日夜に開催されます。宅配購読者無料プランに登録いただければ招待の案内が届きます。ぜひご覧ください。（千代﨑聖史）

毎日新聞 150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。